



Navigator //



モザイクタイル Mosaic tile の散歩道

Vol.4

カネ鹿大岩鹿平商店貼り場（笠原町）

美濃焼タイルとまちの素敵な出会い。

戦後の笠原はタイル産業で沸きました。陶器を扱っていた業者もタイルに関わるようになり、専門の工場が増えていきます。写真の建物も当初は陶器商の倉庫だったとか。戦後すぐにタイル販売が加わり、タイルを輸出し始めてから「貼り場」へと変わります。

貼り場とは、貼り板といわれる道具の上にタイルを並べ、表面に紙を貼り、納品の準備をするための工場。最も盛んだった昭和30年代半ばには、15人もの女性たちが窓辺にずらりと並び、カラカラとタイルを鳴らしていたとか。右隣の事務所があった空間には洒落たモザイクタイルが貼られ、当時は彷彿とさせます。やがて使われなくなり解体される寸前、何とか残して生かそうと周囲の人々が動きました。今、「しあわせなお家」と名付けられ、新たな生を受けて佇んでいます。

モザイクタイルミュージアム

学芸員 村山 閑

※本連載では、市内に点在する美濃焼タイルを使った建造物を紹介します